

大崎市

縄文時代晩期の大集落

北小松遺跡

田尻西部地区ほ場整備事業関連発掘調査

きたこまついせき 北小松遺跡

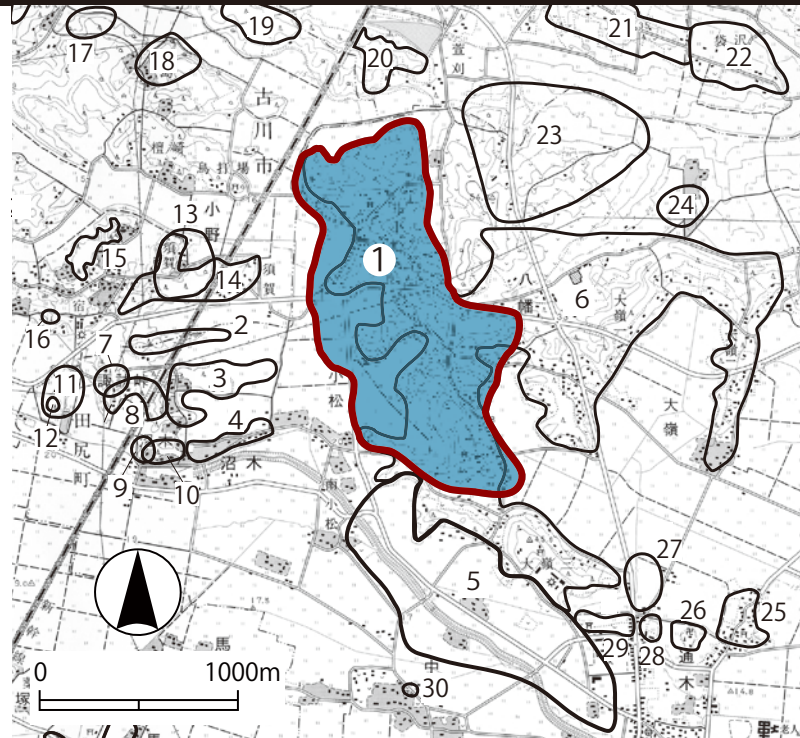
北小松遺跡は、宮城県大崎市田尻小松に所在します。大崎平野の北側を東西にのびる清滝丘陵の裾部から低地部（標高約 13.4 ～ 49.7m）にかけて立地する縄文時代早期から弥生時代前期にかけての集落跡で、現況は宅地、水田、畑、山林などとなっています。

遺跡は昭和 28 年に発見され、昭和 32 年の開田工事では泥炭層や貝層から多数の縄文土器や石器のほか、抜歯が施された人骨やシジミ、タニシ等の淡水産貝類、動物の骨等がみつかりました。

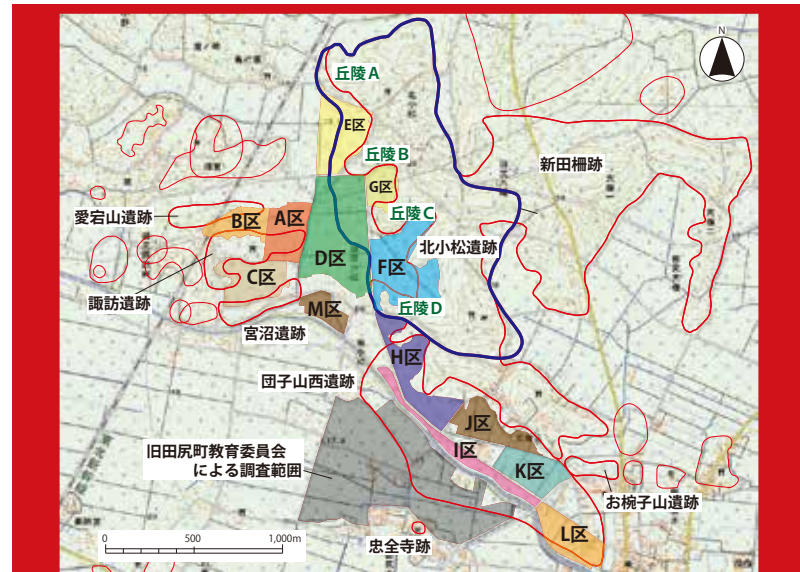
また、遺跡周辺には愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡といった縄文時代の遺跡が多数分布するほか、日向横穴墓群、古代新田郡を治めた新田柵跡、官人集落である団子山西遺跡、城館跡である小野館跡など、古墳時代から中世にかけての遺跡も多数あります。

宮城県教育委員会と大崎市教育委員会（旧田尻町教育委員会）は、大崎市田尻地域の県営ほ場整備事業にともない、平成 13 年度から関係遺跡の発掘調査を実施してきました。

本書は、これらの調査のうち、田尻西部地区は場整備事業の工事に先立って、平成 19 ～ 22 年に宮城県教育委員会が実施した北小松遺跡の発掘調査成果を紹介するものです。



第 1 図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第 2 図 田尻西部地区ほ場整備事業関連発掘調査区 (A～M区)



愛宕山遺跡

諏訪遺跡

宮沼遺跡

北小松遺跡

大崎市

北小松遺跡

遺跡空撮 (南から)

約三千年前に営まれた大集落

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	北小松遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古代・中世	16	一貫寺遺跡	散布地	奈良
2	愛宕山遺跡	集落	縄文・弥生・古代	17	下鞍沢B遺跡	散布地	弥生
3	諏訪遺跡	集落	縄文・弥生・古代	18	華島遺跡	散布地	縄文・古代
4	宮沼遺跡	集落	縄文・弥生・古代	19	大窪遺跡	散布地	縄文
5	同子山西遺跡	集落	縄文・古墳・古代・中世	20	宮刈遺跡	道路・土塁ほか	古代・中世・近世?
6	新田柵跡	官衙・城館ほか	縄文・弥生・古墳・古代・中世	21	北原A遺跡	散布地	縄文・古代・中世・近世
7	沼木館跡	城館	中世	22	袋沢遺跡	散布地・集落	縄文・古墳・古代
8	日向前横穴墓群	横穴墓群	古墳・平安	23	天狗堂遺跡	集落	縄文・古代
9	筒水横穴墓群	横穴墓群	古墳	24	大籾遺跡	散布地	平安
10	大隈館跡	城館	中世	25	通木城跡	集落・城館	古代・中世
11	天神山遺跡	散布地	古代	26	通木寺下遺跡	散布地・城館	縄文・古代・中世・近世
12	天神西横穴墓群	横穴墓群	古墳	27	通木田中前遺跡	散布地	縄文・弥生・古代
13	須賀遺跡	散布地	縄文・古代	28	通木山崎遺跡	散布地	平安
14	小野館跡	城館	中世	29	お梶子山遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・古代
15	普月館跡	城館	中世	30	忠全寺跡	寺院	不明



【F区 遺物包含層検出状況】黒色土部分が遺物包含層です。



洪水堆積層

遺物包含層

【F区 土層断面】白っぽい色の洪水堆積層（砂や粘土）が、黒色の遺物包含層を覆うように厚く堆積しています。



【D区 遺物包含層からの土器等出土状況】今回の調査では、整理箱で約 1,000 箱分の大量の遺物が出土しています。

【繁栄するムラ】

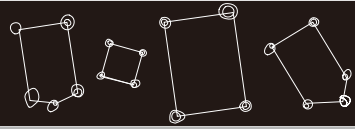
今回の調査では、掘立柱建物跡 67 棟、^{たてあなじょういこう} 竪穴状遺構 1 基、^{しゅうせき} 集石遺構 4 基、^{せきふ} 石斧集積遺構 1 基、^{どこうぼ} 土坑墓 27 基、埋葬犬骨 8 基、土器埋設遺構 5 基、土坑 45 基、^{ほしられつ} 柱列跡 3 条、^{みぞあと} 溝跡 2 条のほか、^{いぶつぼうがんそう} 遺物包含層 15 か所を検出し、^{ばんき} 縄文時代晩期を主体とする膨大な量の土器や土製品、石器・石製品、骨角器、木製品、漆製品、人骨、^{いぞんたい} 動植物遺存体などが出土しました。

遺跡が立地する大崎平野北縁の丘陵に囲まれた低地部は当時、^{こしょう} 湖沼や^{しつちたい} 湿地帯であったとみられ、これらの水域を囲むように集落が点在していました。特に北小松遺跡は、周辺のはほぼ同時期の集落跡である愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡などと比べて、遺構の種類や数が豊富なこと、集落規模が大きく存続期間も長いことから地域における^{きょてん} 拠点的な大集落だったと考えられます。

【大規模洪水とムラの変容】

ところが、弥生時代前期になるとその状況は一変し、集落の規模は急激に縮小します。これまでの研究により、本地域を含む宮城県北部では、弥生時代前期に大規模洪水が発生したことがわかっており、今回の調査でも最大 4 m を超す^{たいせき} 洪水堆積層が、水辺の遺構や遺物包含層などを覆うように堆積していました。定住による^{しゅりょう} 狩猟・採集活動の生活基盤を長期にわたって維持し、集落の継続と発展に必要な不可欠であった水辺が洪水によって埋没したことで、自然と共生してきた北小松遺跡やその周辺のムラは生活の場を大きく変えざるを得ない状況になったと考えられます。その結果、地域全体の集落のあり方が大きく変化し、およそ 1,000 年続いた拠点としてのムラは^{しゅうえん} 終焉を迎えました。

広場を中心としたムラのかたち



【掘立柱建物跡群】

丘陵C（第2図）西端の縁辺部^{えんぺん}では、縄文時代晩期中頃から弥生時代前期にかけての掘立柱建物跡が数多く見つかりました。これらは同じ場所で何度も建て替^かえられていることから、長期にわたり住まいや倉庫などに使われていたと考えられます。一方、丘陵中央部に施設はなく、空閑地（広場）となっており、建物は広場を囲うように配置されていたことがわかりました。また、後述のように建物の外側には、土坑墓や埋葬犬骨、土器埋設遺構（再葬墓^{さいそうぼ}）、集石遺構などの葬^{とむら}いや祀^{まつ}りの行為にかかわる遺構が配置され、さらに外側の低地部には捨て場である遺物包含層が形成されるなど、ムラの中で場の使われ方が決められていた様子をうかがい知ることができました（第3図）。



第3図 集落構造模式図（D区：丘陵C西端部）



死者を送る (葬送)



【土坑墓】

穴を掘って遺体を埋葬した墓を土坑墓といいます。丘陵C西端部南側に集中しており(第3図)、27基発見されました。平面形は楕円形を呈するものが多く、長軸を北北西～東に向けて掘られています。これらのうち埋葬時の姿勢がわかったものは12基あり、その中の11基は仰向けにして手足を折り曲げる「仰臥屈葬位」、残りの1基は横向きで手足を折り曲げる「側臥屈葬位」の姿勢で埋葬されていました。また、遺体に大型の鉢などを被せるものと被せないものがあり、調査によって土器を被せるものから被せないものへと埋葬の方法が変化したことがわかりました。



土坑墓集中地点 (南西から)



土坑墓
土器をさかさまにし
て遺体の頭と足に被
せています。



仰臥屈葬人骨
年齢：推定20～40歳
性別：不明(男性か?)



土器取り上げ後の状態
仰臥屈葬人骨
年齢：推定40歳以上
性別：男性



年齢：推定11歳程度
性別：不明(女性か?)

再葬墓



土器を伏せた状態で埋設しています。

【土器埋設遺構】

穴を掘って大型の鉢を埋設したものです。D区丘陵C西端部北側で5基発見され（第3図）、時期は弥生時代前期のものと考えられます。土器の中から人骨が出土したものもあり、これらは、遺体を一度埋葬し、一定期間が経過した後に遺骨を取り出して、土器に納めて再び埋葬した「再葬墓」と考えられます。このような墓は、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて盛行した埋葬方法の一つで、今回の調査では、土坑墓とは異なった場所で見つかっています。

石を集めて祈る



【集石遺構】

自然石や石器を集積した遺構が4基みつかりました。これらは墓域の近くにあることや、石棒・石刀・独鈷石や土偶といった非実用的な遺物を一緒に伴うことなどから、何らかの祭祀が行われた痕跡と考えられます。

墓に使われた土器



※石器・石製品・自然石・土器・土製品・自然木が1,000点以上出土しました。

集石遺構 (SX43) 出土遺物



集石遺構 (SX43)

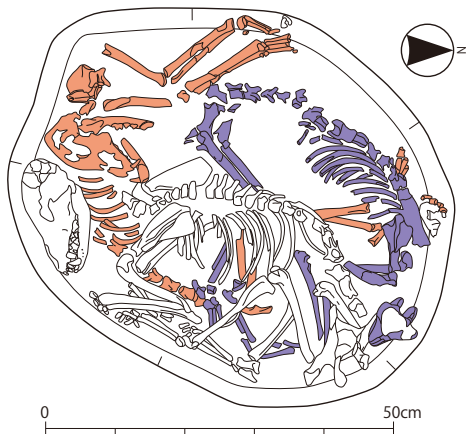


集石遺構 (SX50) 出土遺物

大切に埋葬されたイヌ

【埋葬犬骨】

イヌの骨1～3体分を埋めた穴などが8基発見されました。出土状況を見ると、各部位がバラバラにならずにその姿をとどめており、イヌは食料の残りとして^{はいき}廃棄されたのではなく、ヒトと同様、大切に埋葬されたと考えられます。特にF区では9.5 m×4 mの範囲内に集中し、周囲に建物跡などの施設が存在しないことから、この場所がイヌの^{ほいき}墓域として利用されていたことがわかりました。



第4図 埋葬犬骨実測図 (3体合葬)

すば捨て場



【遺物包含層】

丘陵裾部から低地部にかけての15か所で確認され、土器、石器、骨角器など多種多様な遺物が大量に出土しました。これらの多くはムラの人々によって^{はいき}廃棄されたものですが、当時のくらしぶりを探る貴重な資料となります。

遺物包含層出土サメ歯装着具 (※日本初の報告例です。)

丸木に溝を掘ってサメの歯を埋め込み、漆で固め、表面はベンガラを混ぜた漆で赤く着色されています。全体像や用途は不明ですが、ポリネシアの民族例では「こん棒」などの類例があります。



推定復元図



F区 埋葬犬骨 (1体)



D区 埋葬犬骨 (3体合葬)



F区 遺物包含層遺物出土状況



さまざまな 様々な道具たち



石器・石製品

どっこいし
独鈷石 ※形状が仏具の独鈷
に似ていることから、この
名称がつけられました。



土製品



縄文土器



現地説明会 (平成22年度)

北小松遺跡の時代		
約 38,000 年前	旧石器時代	
約 16,000 年前	縄文時代	
(約 4,000 年前)		草創期
		早期
		前期
		中期
(約 3,000 年前)	後期	
約 2,400 年前	弥生時代	
		前期
		中期
約 1,700 年前	古墳時代	

発掘調査報告書

発見された遺構や遺物は、野外調査の後、室内整理事業を経て分析・検討され、記録として保存されます。その成果は「発掘調査報告書」としてまとめられ、発掘調査が完了します。



文化財課 HP

編集・発行 宮城県教育庁文化財課

令和4(2022)年3月

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号 電話 022(211)3684

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/>



この冊子は1部あたり
31.9円で印刷しています。

この冊子は再生紙を使用
しています。